



令和7年度 協働によるまちづくり地区集会

「世界に誇る持続可能なまち」を目指して
資料編





1. 地区まちづくり協議会	・ ・ ・ ・ ・	1
2. 協働によるまちづくり地区集会	・ ・ ・ ・ ・	2
3. オーガニックビレッジ宣言	・ ・ ・ ・ ・	3
4. 掛川茶フェアトレード	・ ・ ・ ・ ・	4
5. 農業・茶業	・ ・ ・ ・ ・	5.6
6. 安全・安心につながる防災、減災対策	・ ・ ・ ・ ・	7
7. 環境の持続可能性に向けた資源エネルギー循環	・ ・ ・ ・ ・	8
8. 環境資源ギャラリーの建て替えに向けて	・ ・ ・ ・ ・	9
9. 「ここにしかない」都市開発	・ ・ ・ ・ ・	10
10. 歴史的観光資源の活用	・ ・ ・ ・ ・	11
11. 教育・子育て	・ ・ ・ ・ ・	12
12. 移住定住の促進	・ ・ ・ ・ ・	13
13. 働く人に選ばれる市役所へ	・ ・ ・ ・ ・	14
14. データ分析に基づいた地域課題の解決	・ ・ ・ ・ ・	15

地区まちづくり協議会



■平成28年4月の一斉スタートから今年で10年目

- ・10年の間、各地区において作成されたまちづくり計画に基づき、様々な取り組みが実践されてきた。
- ・各まちづくり協議会では、地域住民によるまちづくりの活動が活発化している。

■これまでの活動(一部抜粋)



■何でも手伝い隊・お助け隊



■生活支援車

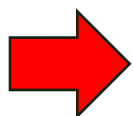


■里山留学(移住促進)



■3世代交流事業

- ・人口減少などの社会環境の変化に伴い、地域ではこれまでになかったような課題に直面。
- ・地域ごと、まちづくり協議会ごとに、問題の内容はさまざま。



このような現状を踏まえ、各まちづくり協議会に伴走し、解決策をともに考える
「協働のまちづくりアドバイザー」派遣制度を創設

協働によるまちづくり地区集会



■ 令和6年度の取組

- ・ 13会場、456人の地区役員の方々と対話
- ・ 地域の課題や市の施策等の意見交換を行い、市民主体のまちづくりの更なる発展
- ・ 開催単位は地区単位から中学校区単位までの中で、地域が選択



地区自由テーマの主な内容

- ・ 公共施設再配置、学校再編、跡地利用
- ・ 人口減少、担い手不足
- ・ ゴミ処理や不法投棄
- ・ 耕作放棄地
- ・ 治水対策
- ・ 公共交通

■ 令和7年度の取組

- 全地区（33地区、32まち協）を2グループに分け隔年で開催
- ・ 開催単位：地区単位、中学校区単位、隣接地区合同から、地域が選択
- ・ 開催時期：8月～11月



市民主体の協働のまちづくり ～持続可能な地域づくりの実現～

オーガニックビレッジ宣言



有機農業推進の取組を起点とし、
市民全体で持続可能間まちづくりをしていくことを宣言

■ オーガニックビレッジとは

- ・ 有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻きこんで地域ぐるみでチャレンジするまち
- ・ 「有機農業実施計画」を策定し、実現に取り組む

■ 有機農業実施計画とは

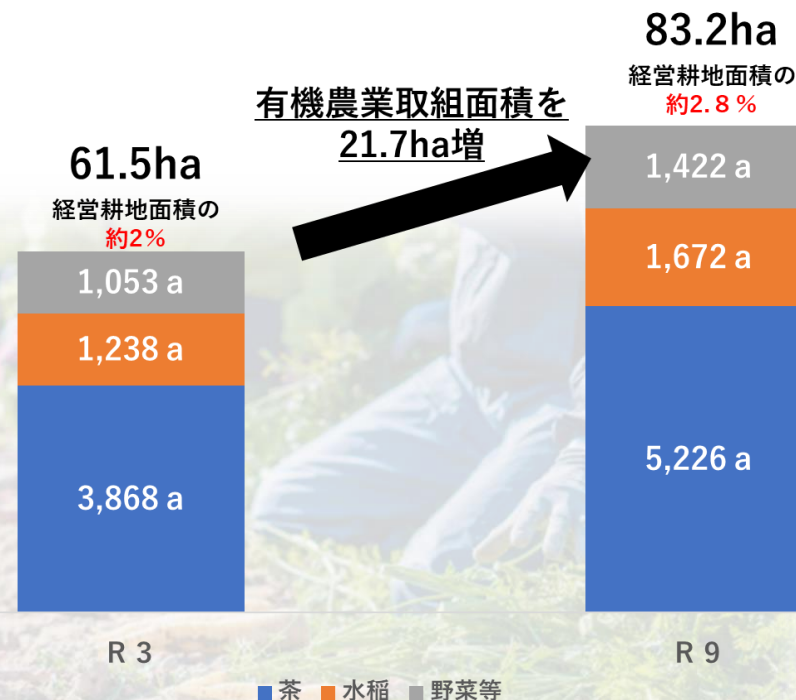
- ・ 計画期間（R5～R9）の5年間で目指す目標を設定
- ・ 「生産→流通→加工→消費」まで一貫した取組体制を構築
- ・ 生産者、農協、茶商組合、市内スーパー・直売所など多くの関係者が協力して策定

○生産段階の推進の取組

- ・ 新規就農者の受入、支援体制の構築
- ・ 有機専用モデル区画の整備
- ・ 肥料の地産地消の取組や有機肥料の実証実験

○流通・加工・消費等の取組

- ・ 有機農業をPRするためのマルシェ開催
- ・ 茶の輸出拡大 ・ 学校給食での提供、学習機会の創出
- ・ マーケティング人材の育成



お茶を中心に、有機栽培に積極的にチャレンジしています

掛川茶フェアトレード



持続可能な茶業を目指して

■ 掛川茶フェアトレード

長い慣習の中で行われている荒茶の流通構造を見直し、

生産者の持続可能な経営を目指すきっかけに

○ 令和6年度から掛川茶フェアトレードをスタート

○ パートナーシップによる「計画生産」を推進

相場に左右されない取引、事前に売り先を明確に

⇒ 生産者の不安を解消し、収入の安定・安心感を



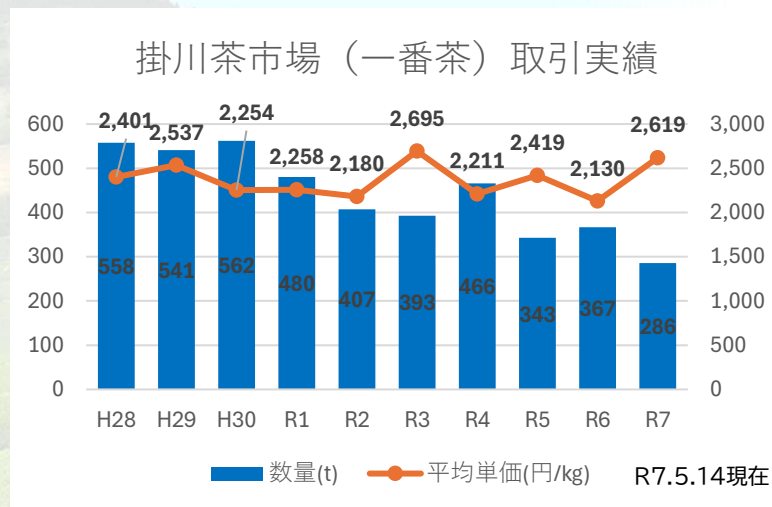
生産者

つくっても売れるか分からない…
どこに売れるか分からない…

○ 令和6年度 掛川茶フェアトレード取組件数

38件（生産者23件、茶商社10件の組合せ）

○ 令和7年度 継続して「計画生産」の取組を推進・拡大



安定した所得のもと、若者が希望をもって茶業に取組める環境
消費者に理解・応援を得ながら、適正な価格形成を実現

農業・茶業



掛川市の農業算出額は 4 位／県内35市町（R5市町村別農業産出額）
ブランド力を磨き 地域で育み 伸びゆく農業へ

■ 地域ブランドの発信

○ 掛川茶

掛川市は、全国茶品評会の深蒸し煎茶の部にて
全国最多の26回の産地賞を受賞

- ・ 掛川茶未来創造プロジェクト 期間：R4～R8年（5カ年）
～**10年後**も掛川が世界に誇れる「お茶のまち」であるために～
 - 【生産】茶産地掛川を支える一次産業の所得向上
 - ・ 有機栽培の拡大
 - ・ 茶生産体制、基盤の再構築
 - 【流通】時代を先取りする流通構造への転換
 - ・ 持続可能な茶取引「茶業版フェアトレード」
 - 【消費】茶産地掛川の持続を可能とする消費拡大策の推進
 - ・ 掛川茶リブランディング事業
 - ・ 健康効能活用



新たなブランドイメージ
「お茶と暮らし」



ちゃんぱん（掛川茶乾杯酒）

○ 掛川牛、露地・施設野菜の振興

- ・ 指定産地作物の安定供給に向けた取組
- ・ 地域ブランドとして商標登録されているメロン、トマト、ニンジン、掛川牛や露地野菜（石川小芋、スイカ、サツマイモなど）や施設野菜（いちごなど）など農畜産生産者の支援



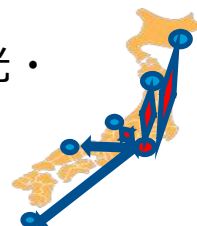
農業・茶業 ②



若い人が希望を持って参入できる仕組みづくりのために

■ 互産互消の展開

- ・ 地方都市とのネットワークを形成し、特産品・観光・定住の交流につなげて、地域経済の活性化を図る
- ・ 現在21地域産品の互産互消活動を展開中



これっしか処等で互産互消の商品を販売中

■ 規模拡大、環境整備支援

○ 土地改良事業

- ・ 令和6年度：市内12ヶ所を実施
- ・ 令和7年度：市内12ヶ所を実施

事業地区：大坂、千浜、野中、五明、三井、正道、和田岡、寺島幡鎌、鹿島堰、平田、上内田、佐夜鹿

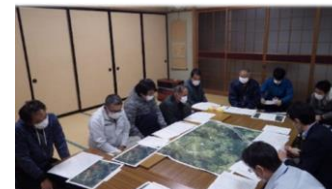
○ 人・農地プランの法定化

- ・ 実質化された人・農地プランを土台とした地域計画を令和6年度末までに策定

■ 担い手への支援

○ 新規就農者支援

- ・ がんばる新農業人支援事業など
- ・ 次世代を担う農業者を志す49歳以下の者に、経営開始時の経営発展を支援する資金を交付
新規就農者育成総合対策事業
令和7年度予算 4,575万円



基盤整備事業に向けた地元打合せ



新規就農者との意見交換



安全・安心につながる防災、減災対策



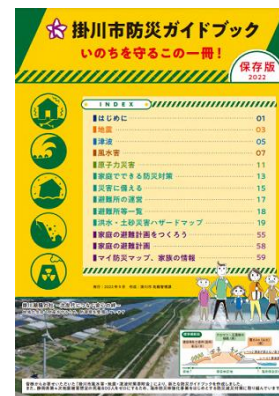
災害による死亡者ゼロを目指した 様々な取組

■ 海岸防災林強化事業「掛川潮騒の杜」の整備

- ・ 自然災害から生活を守り、市民が集い、楽しむ杜を目指して整備を促進
- ・ 全長約 9 k mの海岸防災林をレベル 2 の津波に対応した高さに嵩上げ



掛川潮騒の杜の完成予想



■ 橋りょう耐震化

- ・ 重要路線等にある67橋の耐震化を進める

■ ソフト施策の充実

- ・ 災害による死亡者ゼロを目指し、避難の重要性の周知や、自助・共助の強化を図る
- ・ 「**防災ガイドブック（R4.9改定）**」の周知、「家庭の避難計画」の作成を推進
- ・ 令和 5 年度にガイドブック(4ヶ国語)作成

掛川潮騒の杜の進捗状況（市施行分）

項目	H26～R 6	R 7（予定）	R8
施工延長	7,640m	910m	1,450m
施工延長 累計	7,640m	8,550m	9,000m
進捗率	84.9%	95.0%	100.0%
盛土量	164.0万m3	19.6万m3	16.4万m3

■ 水害対策への備え

- ・ 令和 6 年度に今後の治水対策をまとめた「**掛川治水プラン**」を公表
- ・ 流域全体で水害を軽減させる「**流域治水**」を推進
- ・ 河川改修やしゅんせつを国、県と協力して進めるとともに、田んぼなどに洪水調整機能を持たせる活用方法の検討を進める
- ・ 「**河川水位道路冠水等観測システム**」による、河川や道路状況の見える化により、水害に備える情報を提供する



河川水位道路冠水等観測システム
二次元バーコード →



環境の持続可能性に向けた資源エネルギー循環



■ もったいない条例に関連した取組

- ・「もったいないを合言葉にカーボンニュートラルを推進する条例」が施行。
毎月9日が「もったいないを考える日」となった。
- ・もったいない運動の普及啓発のため、次のような取組を行っていく。

- 1 もったいないを考える日の取組（毎月9日）
SNS発信事業：毎月9日、関連内容をSNSで発信
- 2 もったいないアクショングランプリの開催
 - ・省エネ、ごみ減量、資源循環等の宣言や取組を市民や事業者から募集し、優秀な内容の表彰などを行う



■ 再エネの地産地消

- ・地域新電力かけがわ報徳パワー(株)と連携し、再エネの地産地消や地域内の経済循環を進める。



- 1 公共施設電力のRE100化
 - ・報徳パワーの再エネ由来の電気を活用し、公共施設からの温室効果ガスの排出を削減
- 2 卒FIT電力買取事業
 - ・家庭の太陽光発電の電力を買い取り、供給電力として活用
- 3 公共施設への太陽光発電設置による再エネ利活用事業



環境資源ギャラリーの建て替えに向けて



- ・掛川市・菊川市衛生施設組合は、2030年4月に新しいごみ処理施設稼働を目標に建設準備を進めている。
- ・現在のごみ処理施設は、建設から約20年が経過し、老朽化によるトラブルが多発。
- ・そのため焼却炉を令和7年3月末で停止。現在は、ごみを市外へ搬出し処理を実施中。

そのうち
重大トラブル
5件

ごみ処理が
ストップした回数
127回

Q1 ・新しいごみ処理施設ができるまで、
ごみはどこに出せばいいのか？

A ・今までと変わらず、ごみを出せます。
新施設の使用開始までは、近隣の市や民間業者
のご協力をいただき、ごみを処理する。
このため、環境資源ギャラリーでの受け入れや地
域のごみステーションからの回収も、今までと変わ
らず実施。

Q2 ・新しいごみ処理施設はどこにできるのか？

A ・環境資源ギャラリーの敷地内で建設される。
建設には広い敷地が必要となるため、環境資源
ギャラリーの一部を解体して、敷地を広くする工事
を2025年度に行う。

Q3 ・新しい施設の工事スケジュールは？

A ・計画的に進めています。

令和 7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
工事業業者 選定・決定						
現施設 減築工事	新施設設計	新施設整備工事			新施設 稼働開始	
					現施設解体工事	

Q4 ・環境資源ギャラリーを修理して使うことは
出来ないのか？

A ・修理は難しいと判断。
修理には新しい施設を建設するのと同じくらいの
費用がかかり、修理しても10年程度しか使用でき
ないことが分かった。さらに2020年5月に起きた
大きな故障を修理するには、建物を壊す必要があ
ることも分かった。



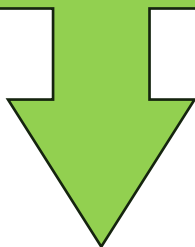
建て替えQ&A
(掛川市HP)

「ここにしかない」都市開発



花鳥園に隣接する南西郷地区の土地利用の検討

南西郷地区の立地・地形を活かした、
「ここにしかない」商業施設・レジャー施設の誘致



掛川市の賑わい創出の拠点

市民が期待する商業施設誘致

新たな雇用の創出



歴史観光資源の活用



■ 吉岡大塚古墳



■ 仁藤の大獅子



■ 掛川城

文化財の**保存・活用**
で南北の**賑わい**づくり



■ 横須賀城磨き上げプロジェクト



■ 紅葉の松ヶ岡



■ 三熊野神社大祭



■ 高天神城CG再現



待機児童ゼロの継続、 質の高い乳幼児教育・保育のために

■ 様々な子育て支援策

- ・ 子育て総合案内サイト「かけっこ」による情報発信の充実
- ・ 子育てコンシェルジュによる訪問支援
- ・ 「かけっこちゃんねる」による子育て支援施設の紹介動画配信
- ・ 市内18カ所の地域子育て支援センターなどでの子育て親子の支援
- ・ 子育てにやさしい事業所づくりの推進（令和6年度末 47事業所）



■ 幼児教育・保育環境の充実

○ 保育士の確保

- ・ 安定した保育士確保のために
⇒ お仕事応援相談会、就職応援資金貸付事業、宿舍借り上げ支援事業
- ・ 将来の保育士への機運醸成のために
⇒ 高校生と乳幼児のふれあい体験事業（事業を通じ、結婚や子育てへの関心を高めることも目的としています）

○ 乳幼児教育・保育の質の向上

- ・ 実践的研修を重ね自己研鑽を進める「かけがわ乳幼児教育未来学会」事業の充実
- ・ 4市1町連携キャリアアップ研修を開催し、研修受講の機会を増やすとともに保育士等の処遇改善を実施
- ・ 公私立一緒に先進事例や課題などを学び合う、「まなざし研修」の実施



移住定住の促進



あなたの夢、描いたつづきは掛川で。
テレワークが進み、掛川市を含む県西部も首都圏の通勤圏へ

○ 移住相談の充実

- ・ 年100件を超える相談に対応！
- ・ オンライン移住相談会の対応拡大（毎週水曜日午後、平日夜間）
- ・ 首都圏等で行われる移住フェアへ出展

○ 移住コーディネーターとの連携

- ・ 移住情報の発信や移住者を対象とした交流イベントを開催
- ・ 移住希望者の不安を取り除き掛川の良さを伝える

○ 地域おこし協力隊の増員

- ・ 協力隊 2 人目の喜多村さんは地域特産品の活用を促進
- ・ 地域の活性化を目指し 3 人目の協力隊を委嘱予定

○ 保育園留学の実施

- ・ 市外の保育園児を含む子育て世帯を 1 ～ 2 週間受入
- ・ 掛川のリアルな暮らしを体験してもらい移住定住につなげる



地域おこし協力隊として活動する
喜多村純さん（左から 2 番目）

掛川市は 3 年連続人口の転入超過 今後も転入超過を拡大

働く人に選ばれる市役所へ



キャリア採用

これまで

全職種**39**歳まで

これから

年齢要件を撤廃

減少する応募人数の増加を狙い、
様々な経験をもつ、多様な人材を採用します。

応募数 R5:30人 R6:27人



新設

専門性の不足を解決！



ジョブ型採用の開始

掛川市の喫緊の課題を解決する、プロフェッショナルな人材を採用。
ジョブ(職務)を明確にし、ピンポイントで採用を実施します。

4月から新設される、マーケティング課に1名配属

R7.4.1より

ドレスコードフリー
を導入しました

服装の自由化



Q ドレスコードフリーってなんですか？

職員がその日、最高のパフォーマンスを
発揮できる服装等を柔軟に選べる取り組みです

Q

なぜそのような取り組みを
実施するんですか？



掛川市役所では柔軟で多様な働き方を実現し、
誰もが働きやすい職場を目指しているからです



TPOに合わせて
清潔感があり
親しみやすい服装を心がけます

問い合わせ先 人事課

データ分析に基づいた地域課題の解決



・令和7年度よりマーケティング課を新設

マーケティング

プロモーション

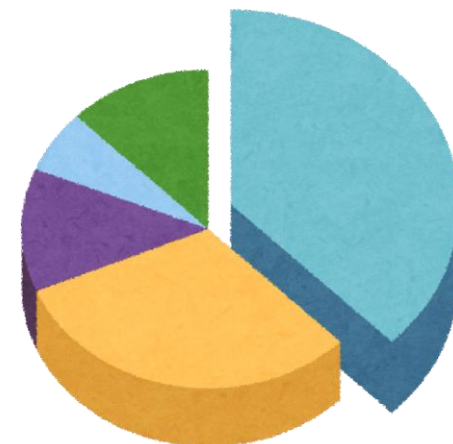
データ分析による戦略策定

ブランディング

ふるさと納税

・データ分析に基づいた事前に仕掛ける事業展開を図るため、マーケティング、ブランディング、プロモーション、広報を担当する「マーケティング・広報係」及びデータ分析を基にふるさと納税の強化を図る「ふるさと納税推進室」からなる「マーケティング課」を新設。

・ジョブ型採用によりプロフェッショナルな人材を1名登用。



人流データの活用で効果的な政策立案による地域課題解決を目指す！